

工場建屋向け追加

LED照明 軽量性など訴求

日立プラントメカ

日立プラントメカニクス（山口県下松市、赤坂聡社長、08333・41・3080）は、天井に設置する工場建屋向け発光ダイオード（LED）照明事業を拡大する。軽量性などを特徴とした専用製品の販売を4月から始めた。既存のクレーン向けLED照明とのセットでも提案し、水銀灯からの置き換え需要を狙う。工場建屋向け照明で年1億5000万円、クレーン向け照明と合わせた合計で年2億5000万円の売上高を狙う。

日立プラントメカニクスは工業用LED照明「タフエコライト」のラインアップに工場建屋向け製品を加えた。同製品は設計を簡



子を採用し、消費電力は同50%減の120ワット。当たりの想定価格は9

万8000円（消費税込み）。2016年度中に2000個の販売を目指す。これまで同社はクレーン向けLED照明に絞って展開してきた。ただ顧客から工業用LED照明の天井タイプ

工場建屋向けに転用したいというニーズがあれば納入してきた。今後もそうしたニーズは底堅いとみて、専用製品を展開することにした。水銀灯の製造・輸出入を禁止する「水銀に関する水俣条約」が施行される20年以降は、水銀灯の新規導入ができなくなる。現在、工業用照明では水銀灯が大半を占めており、今後、LED照明への切り替え需要が伸びる見通し。

日立プラントメカニクスは、日立製作所の100%子会社で16年3月期の売上高見通しは約300億円。クレーンは主力製品のひとつで、14年にクレーン向けLED照明を発売した。